

清明学園同窓会 トンボ通信

第6号



令和4年6月
発行元
清明学園 同窓会

〒145-0066
大田区南雪谷3丁目
12-26
学校法人 清明学園内
会長 藤井俊一
発行人 千葉精一

同窓会
QRコード

メールアドレス
登録用
seimei.dousukai@gmail.com



メールアドレスの登録に
ご協力ください

ホームページ
http://www.seimei-dousukai.com



「進みゆく清明学園」 同窓会名誉会長 浅野輝一

清明学園同窓会の皆様には、お元気で活躍のことと思います。皆様は幼少期に濱野重郎先生の教育哲学「一人ひとりの子どもが生まれながらにして持ち合わせている力を思いきり伸ばす」に支えられ、すばらしい学園生活を送られてこられたことと思います。藤井俊一同窓会長が、常々語られている「清明学園は永遠なり」の言葉は、何よりも清明教育の真髄を表現されていると思います。

現在の清明教育は、濱野先生の教育理念を受け継ぎ、更に次世代へと引き継いでいくために、教師一同専念しています。

コロナ禍で「学びの場」が奪われるという非常事態の中、同窓会、後援会の方々から教育機器の購入という大きなお力添えを頂き、オンラインでの学びの場が確保できました。こと心より感謝しております。あれから三年、子どもたちの学園生活は順調に、以前にも増して伸び伸びと力を発揮しています。

各部での一例をあげますと、幼稚園では、預かり保育の充実、初等部では、NHKの合唱コンクールで入賞をはじめ校内でのイベントの参加、中等部では、テニス部が全国大会で優勝するという快挙等々、

大きな成長が感じられます。詳しくは各部の担当者から報告させていただきます。

二年間、延期を余儀無くされました九十周年記念式典ですが、濱野重郎先生のお誕生日の本年十一月十四日(月)に開催を予定しています。

恩師「濱野重郎・濱野好郎先生」 の思い出 同窓会会長 藤井 俊一

我が人生の恩師「重郎先生と好郎先生」と時空を超えお話を聞いたら、次のようなことを言われると想像しております。

重郎先生曰く「一人ひとりの子供はそれぞれの個性を持ってこの世に生まれてきます。得意な分野も個々で異なる。その個々の長所を自分で自覚・発芽できるように清明教育はサポートします。そして、その長所・能力を磨きCreating Shared Value (共通価値の創造)を作りだし、たった一回だけの人生であるとの自覚を持って、他者に貢献し、そのご褒美として糧を得て次の世代に繋げる。個人が基本であり、トンボっ子一人ひとりがこうした人生を送れるよう心から望んでいます。」

それに加えて好郎先生は「なるとかなる」と待っていて無駄だよ、なんとかなると言っ

て何とかなった試しはない。全ての偉人・成功者は努力してなんとかしたからだ。」(濱野富美子氏「わすれな草」P.33より)

「Black Swan (黒い白鳥)」が現出する頻度が高まっている。パンデミックの後には、今世紀に起こるとは想いもしなかった非道な戦争です。社会の転換期かもしれません。このような時こそ清明教育を受けた6千人のトンボっ子同士が、そして先生方とお話しをする中から、より良い知恵・対応のヒントが生まれてくると信じております。

今年こそ、なんとか環境が許し、第2回清明トンボ会を実現出来る事を願っております。

「コロナ禍のICT教育」 初等学校校長 横山 豊治

コロナ禍も三年目、今現在は、できるだけ学びをとめず、ほぼ通常の学校生活に戻っています。ただし、感染対策は十分に行い、マスクは常時着用、机は全員前向き、昼食はパーテーションに囲まれての黙食です。その中で、オンライン教育は急速に進みました。学園でもズームを活用したオンライン授業は勿論、日頃の授業の中でも一人一台のタブレットを使用し、プログラミング教育や、タブレットのよいところを利

用したICT教育を進めていくところですが、初等部では、ロイノートというアプリを使って友達と意見交換をしたり、理科の授業では観察や実験のようすを映像で記録したりしています。学園全体での研究として「ICT教育推進委員会」を立ち上げ、幼稚園、中等部とも連携した活用方法を研究しています。今後「清明らしさ」の教育を活かしつつ、ICTの活用に力を入れていく予定です。



中等部のオンライン学習 中学校校長 鈴木敏弘

二年以上続くコロナ禍では、オンライン学習が必要不可欠となりました。当初は何も設備が整っていなかった中等部でしたが、同窓会、後援会からの多大なるご支援をいた

き、無線ランやプロジェクトが配備され、今年度はいよいよ一人一台のタブレットも揃います。今では、休校になっても、家庭へ授業を生配信することができるようになりました。また、九年生は、感染予防対策で受験直前にオンライン授業に切り替え、教科指導のみならず、個人指導や面接練習、保護者面談でも、大変有効に利用することができました。全学年の生徒が、タブレットを操作することが当たり前のようにできるようになっていきます。それ以外にも、濃厚接触等で元氣なのに登校出来ない生徒へ、授業の様子を配信することもできました。今後機器を有効活用する教育に挑戦してまいります。

子どもたちの笑顔のために 幼稚園園長 濱野道子

四月八日、暖かな日差しの中、子どもたちの笑顔溢れる入園式が執り行われました。今ではすっかり幼稚園に慣れ、砂遊びに熱中したり、園庭ではアスレチックを楽しむ姿が見られます。コロナ禍においても、子どもたちは心のおいても、子どもたちは心まま動き、興味のあることや楽しいと感じることに没頭しています。この先も感染症対策をとりながらの生活が続くでしょう。

《二面へ続く》